

今こそ労働者のためのメーデーを!

国 労 ち ば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発責 加藤 晃一
編集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963
FAX 043(238)5967

メーデー前夜祭開催



「被解雇者労働組合・鈴木客室乗務員団長、在日朝鮮青年同盟千葉県本部からもあいさつを受けた。」

4月26日、国鉄闘争の経験と教訓を活かす千葉県共闘会議主催のメーデー前夜祭が、千葉市民会館において開催された。

主催者を代表して千葉県共闘会議議長の坂本議長がメーデーの主旨、自民党の裏金事件や衆議院補選などの問題を指摘するあいさつ。来賓の、社民党・工藤代表、新社会党・宮川委員長、共産党・川副委員長からそれぞれあいさつがされ、立憲民主党からメッセージが寄せられた。JA



講演は、戦争をさせない・9条壊すな総がかり行動で、マイクでいつも歯切れよく訴えている菱山南帆子さん(許すな憲法改悪市民連絡会事務局長)が2年前に続き「岸田政権に終止符を—私たちの課題と実践—」と題して行われた。

団結で、

働く意欲
湧いてくる

向けるべきだ。特に9条を持つ日本はやるべきことは多くあるのに」と、軍事費を増大している岸田内閣の政権運営に切り込んだ。すでに戦争は、日常となっていて親が基地反対している子が同級生から給食を食べるなど

武力で平和はつukれない!

第10回憲法大集会



5月3日、東京都江東区の有明防災公園において「武力で平和はつukれない! 取り戻そう! 憲法いかす政治を」をメインスローガンとした第10回憲法大集会が開催された。五月晴れの元、各界からあいさつ・スピーチがされた。

その後のリレートークでは「地震と原発」「難民問題」「沖縄問題」「核兵器課題」「パレスチナ問題」について発言があった。ウクライナやガザでの武力侵攻が続く、罪のない人が犠牲となっている。その多くは未来を担う子供たちだ。過去の歴史を振り返



れば武力増強・覇権主義が悲惨な戦争に繋がります。武力で平和が作れないのは歴史が証明している。日本は77年間、平和憲法を維持してきた。無用な軍拡競争に参加してはならない。平和を守ろう。集会には3万2千人が参加した。



言われるなど反対出来ない雰囲気が出ている。こうしたことが戦争に進んでいく道になると講演。30代の菱山さんが鎌倉孝夫の「国鉄改革を撃つ」を読んで感動し

たと言っていたことに驚かされ、感動させられた。また、今後は労働組合もV字回復していくとの励ましも頂いた。歯切れ良く、みんな頑張ろうという気持ちになった。

講演後、メーデーアピールをユニオン木更津の杉森書記次長が読み上げて採択し、最後に国労千葉地本の加藤委員長から、団結ガンバローで終了した。

合国境

富良野(新得間が廃線となり、「北の国から」や「鉄道員(ぼっぼや)」ゆかりの駅が姿を消した。

工務協定期委員会

忙し過ぎて暗い職場に

3月16日、千葉工務協第35回定期委員会が千葉地本会議室において開催された。

最初に永野副委員長が「JR東日本は2024年度新賃金及び夏季手当の回答を示してきた。昇給については2年前コロナ禍で削ら



れた昇給係数2の回復が図られていない。職場の期待や努力にもっと応えるべき」と近況報告をかねて開会のあいさつをした。

この後に委員会成立宣言・延期承認と議事が進む。昨年の分会再編に伴い、地本内における工務協所属の分会が2分会（千葉設備分会と木更津分会）となり、代議員は分会ではなく、各班（旧保線分会等）から選出し副委員長が議事を進めた。その後、千葉地本を代表して嶋田組織部長より「設備部門におけ



る事故・事象が昨年から相次ぎ発生し、死傷者も出ている。安全・安定輸送確保を維持していく為にも労働組合の存在が大切だ」とあいさつを受けた。

千葉工務協森田議長は「千葉工務協も33名となり、年々数が減っている。今後は平成採組員を助け、工務協を盛り上げて行く為にも全組員が一致協力していく必要がある」とあいさつした。

議題の2022年度決算・会計監査報告・2023年度予算案・方針案を提起した後、討論に入った。

【議論】
◆職場代表選挙に初めて立候補した。その中で有効票21票の中で国労以外の票が4票（国労票含めて6票）獲得



した。保技セの若手社員から「多忙すぎて話す機会がないので職場が暗い」と言われているが、自職場では組織拡大とまではいかないが若手社員と話をしている。

◆保線のパートナー会社でパートとして働いているが組合がないため、社友会を結成し社員代表を決めて36協定を締結している。

◆保線職場でも退職・転勤等の影響で人手不足となつて所長自ら夜間作業を率先している箇所もある。

◆エルダー出向したJRのグループ会社は今年の4月から65歳定年制となる。「親会社であるJR東日本も65歳定年制になるの？」と尋ねられるなど多くの発言があった。

最後は海後事務長より「工務協や設備分会の委員会を開催する際

は各班の代表が参加して討論することが大切」、「TSUNAGUARI」は東日本エリアや各地本の動きがリアルタイムで分かる。一人一人が登録して情報を共有しよう」と集約し、2023年度予算案と方針案が承認され、最後は森田工務協議長の団結ガンバローで終了した。

工務協新役員
議長 森田 誠一
東鉄工業（建築班）
副議長 永野 光浩
交通建設（網保班）

事務長 海後 隆
交通建設（成保班）
常任委員 嶋田 福実
JR千葉鉄道サービス（新保班）

会計監査 大木孝之
交通建設（成保班）
※分会はいずれも千葉設備分会

木更津分会大会

4月20日木更津市中央公民館において分会大会を開催した。

長田副委員長の司会進行で進められ、組合員であった故若鍋（旧岡田）茂氏への黙とうを出席者全員で行った。

議長に加藤（上総湊駅班）さんを選出。石橋執行委員長から「地本内で唯一の地域分会として発足した木更津分会だが広範な地域に点在する中で、集

まる機会と条件を模索しながら運動を進めてきた。分会組合員が最後のひと踏ん張りとして組織拡大に向けて奮闘することを確認しよう」とあいさつ。

加藤地本委員長からは、今春闘の取り組みと組織の現状・今後の状況やJRの利用者や沿線住民の「声」を聴こうとしない姿勢が多くなっている。今後もし

用者・沿線住民・自治体と手を携えながら運動を進めていきたいとあいさつを受けた。

◆木更津統括センター乗務ユニットから、車掌になりたての若い仲間が特急乗務する事象となっている。運転士もDC・EC両方の免許を取得するように勧められ「なんでもやらせられ化」が急ピッチで進められている。

◆交通建設では、退職者の補充がされず、孫請けの社員と一緒に仕

事をしている。業務知識が十分でない者を使って本当に大丈夫なのか日々不安な状況だ。

◆JESSS木更津駅務管区では、要員需給がひっ迫しており、異動を希望しても困難な状況となっている。教育・訓練は紙ベースの資料やタブレット配信だけで勝手に勉強しろと言

うのが実態だ。
◆仕事の密度が日々上がっており、パート社員の時給を上げて欲しい、など多くの仲間から職場の不満などが出

された。

職場の問題点を要求とし会社に解決を迫っていく事を確認した。

《新役員体制》

執行委員長 駒 清美（長浦駅班）
副委員長 石橋 康裕（長浦駅班）
長田 和弘（木更津統括センター乗務ユニット班）

岩田 恭司（交通建設木更津班）
書記長 山崎 一男（袖ヶ浦駅班）

